

検査内容変更のご案内

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。

先般、日本臨床化学会（JSCC）から、LD（乳酸脱水素酵素）とALP（アルカリホスファターゼ）をJSCC法からIFCC法（国際臨床化学連合法）への変更を推奨するとの基本方針が発表されました。当検査センターでは、令和3年4月1日より、学会の方針に基づき当該検査項目の検査法をIFCC法へ変更することになりましたのでご案内申し上げます。

今後とも当検査センターをご利用くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

●変更期日：令和3年4月1日（木）受付分より

●変更内容

	LD（乳酸脱水素酵素）		ALP（アルカリホスファターゼ）	
	新	旧	新	旧
項目名	LD/IFCC	LD	ALP/IFCC	ALP
項目コード	1163	163	1164	164
測定方法	IFCC 標準化対応法	JSCC 標準化対応法	IFCC 標準化対応法	JSCC 標準化対応法
基準値	124～222U/L	119～229U/L	38～113U/L	115～359U/L
緊急報告値	1000U/L以上	1000U/L以上	500U/L以上	1500U/L以上
備考	緊急報告値（パニック値）が検出された場合は、測定後速やかにFAXまたは電話でご報告致します。			

※ご不明な点がございましたら下記にご連絡ください。

（担当：検査課 中田、加藤 検査室直通電話番号 076-239-3832）

【変更に関する留意点】

●LD

肝疾患では、LD5 優位となり、JSCC法に対して低値傾向になります。

心疾患では、LD1 およびLD2 が優位であり、変更後は若干高値傾向になります。

白血病では、LD2 およびLD3 が優位とされています。変更後の測定値の変動は許容誤差範囲内です。

●ALP

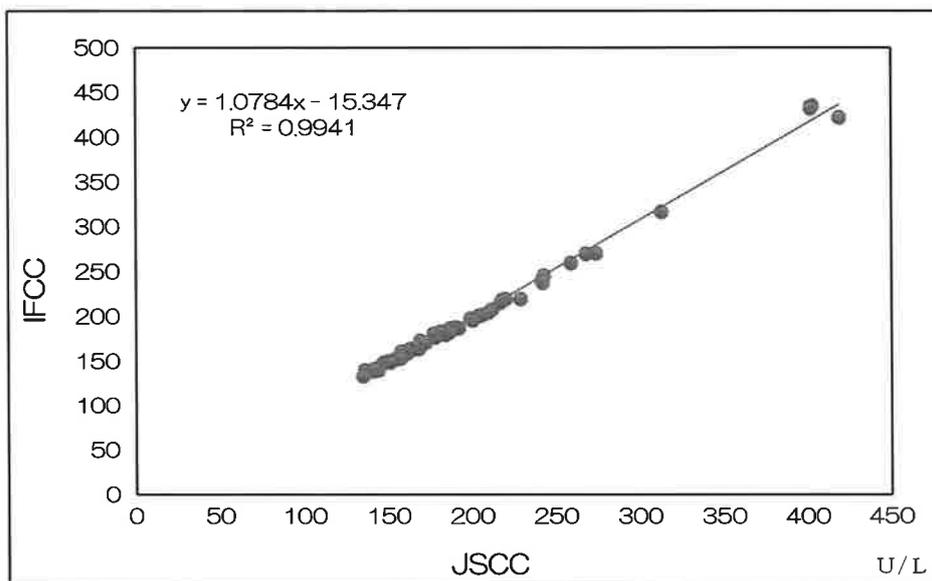
測定値がJSCC法の1/3程度になります。

JSCC法と比較すると血液型B、O型で小腸型ALPを含む検体では低値に、妊婦では胎盤型ALPが増加することで、高値になる傾向が認められます。

参考資料：一般社団法人 日本臨床化学会「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」
(2019年11月21日) URL : <http://jsc-er.jp/>

【相関図】 (自社内検討データ)

●LD



●ALP

